

卷末資料

資料 1 HIV/AIDS関連用語集

資料 2 主要な抗レトロウイルス薬

資料1 HIV/AIDS関連用語集¹

3 × 5 [Three by Five]

2005年までに発展途上国でHIV/AIDSと共に生きている300万人が抗レトロウイルス薬療法 (ART) を受けられるようにするという、世界保健機関 (WHO) が提唱する地球規模の目標。「3 × 5」に関するWHOの公式説明は以下のウェブサイトを参照のこと。<http://www.who.int/3by5/en/> (アクセス日: 2004年12月19日)。

ABC [Abstinence, Be faithful, use Condoms]

HIV感染拡大予防対策において、禁欲 (Abstinence)、貞操 (Be faithful)、コンドームの使用 (use Condoms) の三つを強調するアプローチ。1990年代前半にウガンダで定式化された。

ART [Antiretroviral therapy] 抗レトロウイルス薬療法

抗レトロウイルス薬 (ARV) を用いるエイズ治療法のこと。通常3種類以上のARVを組み合わせて用い、「カクテル療法」「三剤併用療法」「高活性抗レトロウイルス薬療法 (Highly active antiretroviral therapy: HAART)」などとも呼ばれる。

ARV [Antiretroviral drug] 抗レトロウイルス薬

レトロウイルスに対して効果のある薬。HIV/AIDS関連の文脈では特にレトロウイルスのひとつであるヒト免疫不全ウイルス (HIV) に対して効果のある薬を指す。ウイルスの増殖のいずれかのステップを阻害し増殖を止める。抗レトロウイルス薬および療法についての日本語の基本的ガイドラインは、例えばHIV感染症治療研究会のウェブサイト (<http://www.hivjp.org/>) を参照のこと (アクセス日: 2004年12月19日)。

CCM [Country Coordinating Mechanism] 国別調整メカニズム

各国において世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (GFATM) のカウンターパートとして機能する組織。各国の政府、国際機関、各国援助機関、NGO、学界、民間営利セクター、三大感染症と共に生きる人々 (患者・感染者) などが参加している。CCMは、各国のニーズに基づいて計画を立案し、GFATMに資金拠出を申請し、計画が是認されて資金拠出を受けた場合には、計画の執行を監督する役割を負う。GFATMの資金が各国において適切かつ有効に活用されるかどうかは、各国のCCMの能力に大きく左右される。

CD4 カウント [CD4 (cell) count]

CD4 は免疫全体をつかさどるCD4 陽性細胞 (ヘルパーT細胞) の表面にある抗原のこと。

¹ 巻末資料の作成にあたっては、三浦藍氏 (立命館大学大学院先端総合学術研究科) および井上陽介氏 (東京大学教養学部) にご協力いただいた。記して感謝いたします。

HIVはCD4陽性細胞に侵入してこれを破壊し、感染者の免疫力を低下させる。そのため、CD4カウント（CD4陽性細胞数）はHIV感染者の免疫状態を表し、HIV/AIDS治療のための重要な指標になる。一般に、この値が200mm³以下になった場合、抗レトロウイルス薬療法（ART）を開始する必要があるとされている。

GFATM【Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria】世界エイズ・結核・マラリア対策基金

人間の生存と安全を脅かす三大感染症の危機と闘うため、世界各国の協力のもとに途上国の感染症対策を支える資金を提供する基金。スイスの法律に基づく民間財団として2002年1月に設立された。本部ジュネーブ。GFATMに関する公式の情報はGFATMのウェブサイト（<http://www.theglobalfund.org/>）を参照のこと（アクセス日：2004年12月19日）。

HIV【Human Immunodeficiency Virus】ヒト免疫不全ウイルス

エイズの原因となるウイルス。体液（血液、精液、膣分泌液、母乳など）の接触・侵入により感染する。感染経路としては性行為による感染、母子感染、血液を媒介とした感染（輸血、注射針の共用など）などがある。

HIV感染率【HIV prevalence】

Prevalenceは、ある一時点での、観察しようとする集団の中で目的とする疾患にかかっている者の割合を指し、一般に有病率と訳される。HIV/AIDSの場合は、エイズ患者に加え、まだ発症していないHIV感染者も含めて、HIV/AIDSと共に生きている人々の割合を指すため、本報告書ではHIV感染率と訳出した。成人HIV感染率は、一般に15歳から49歳までのHIV感染率をいう。

IDU【Injecting drug user】注射薬物使用者

静脈に薬物を注射することから静脈注射薬物使用者（Intravenous Drug User：IDU）ともいう。薬物使用には、経口や吸引など様々な方法があり、静脈注射はそのうちの一つである。HIV/AIDSと薬物使用の関連性は様々あるが、直接かつ最大のものが、注射針の共用による感染拡大である。一方、薬物の使用は、注射・非注射にかかわらず感染の可能性の高い性行為を促進する傾向があり、これが間接的にHIV感染の可能性を拡大している。注射薬物使用者の割合が低く、経口または吸引による薬物使用者の多いサブサハラ・アフリカでは、薬物使用と感染の可能性の高い性行為との関係がより注目されるべきである。なお、IDUに関わるHIV/AIDS対策として注目されているのが「ハーム・リダクション」（健康被害軽減）である。これは、逮捕・拘禁・処罰など法執行の側面からの対処が中心だったIDU対策を改め、HIV感染を始めとする健康被害を軽減することを対策の基本概念とし、安全な注射針の供給、代替薬物療法（より被害の少ない薬物を代替的に供給する）、薬物依存に関する治療プログラムへの包括的なアクセスの保障などを行うもので、現在は欧米だけでなく、現実にIDUの

HIV感染が拡大している東南アジアや中央アジア諸国などでも実践されつつある。ハーム・リダクションについては、例えば米国のハーム・リダクション連合（Harm Reduction Coalition）のウェブサイト（<http://www.harmreduction.org/>）を参照のこと（アクセス日：2004年12月19日）。

MSM【Men who have sex with men】男性と性行為をもつ男性（を包括的に指す用語）

一般に、性的意識がどちらの性に向くかに関する概念を「性的指向」(sexual orientation) といい、同性に性的意識が向く人を同性愛者 (homosexual)、異性に向く人を異性愛者 (heterosexual)、両性に向く人を両性愛者 (bisexual) と呼ぶ。これは、性的指向に関わる自己認識の存在を前提としたものである。一方、MSMは性的指向の如何よりも「同性と性行為を行うかどうか」に注目した概念である。HIV/AIDSの文脈において、性的指向に着目した「同性愛者」といった概念以外にMSMという概念が必要とされた理由は次の通りである。非欧米圏の途上国においては、例えば「同性愛者」という自己認識を持つことなく同性間性行為を行う人口が存在しているなど、性的指向の如何と実際の性行動の関係がその社会の文脈に即して多種多様に編成されており、欧米的な「性的指向」の概念のみではとらえられない。そのため、HIV/AIDSの文脈において、むしろ「行為」に着目し、性的指向に関わるアイデンティティの如何に関わらず、同性間性行為を行う男性全体を包括的にくくる概念が必要とされた。その結果として1990年代前半までに「MSM」という用語が作られたのである。なお、アフリカにおいては同性間性行為によるHIV感染の実態はほとんど把握されていないが、近年、南部アフリカを始め、ウガンダ、ナイジェリアなどで同性愛者のグループが活動を開始しており、これに伴ってMSMのおかれた状況も徐々に明らかになりつつある。アフリカのMSM・同性愛者の状況については、たとえば「ビハインド・ザ・マスク」のウェブサイト（<http://www.mask.org.za/>）を参照のこと（アクセス日：2004年12月19日）。

PEPFAR【President's Emergency Plan for AIDS Relief】大統領エイズ救済緊急計画

アメリカ合衆国大統領のイニシアティブにより米国2003会計年度より実施されている、国際的なHIV/AIDS問題に取り組むための米国の5カ年計画。ブッシュ大統領が2003年の一般教書演説で打ち出したもので、2003年から5年間で合計150億ドルを拠出することとなっている。主要対象国は、サブサハラ・アフリカ12カ国、カリブ海地域2カ国、アジア地域1カ国（ベトナム）の15カ国。PEPFARに関する公式の情報は例えば米国国際開発庁のウェブサイト（http://www.usaid.gov/our_work/global_health/aids/pepfarfact.html）を参照のこと（アクセス日：2004年12月19日）。

PLWHA【People living with HIV/AIDS】HIV/AIDSと共に生きる人々

HIVに感染している人々・エイズを発症している人々のことを指す。HIV/AIDSが社会的に登場した1980年代、HIV感染者・エイズ患者は、マスメディアや一般社会において“ AIDS Victims ”(エイズの犠牲者) などといった形で、HIV/AIDSにむしばまれる犠牲者、もしくは

は医師・医療従事者によって医療を施される客体として表象されることが多かった。こうした他者からの規定に基づく表象に対し、HIV/AIDSと共に生きているという条件を前提として、自己の生のあり方を主体的に選択し、形成していく「HIV/AIDSと共に生きる人々」の存在を示すために、この用語が作られた。現在では、国際的には、「HIV感染者」(HIV career) や「エイズ患者」(AIDS patient) といった表現よりも、「HIV/AIDSと共に生きる人々」(PLWHA) という表現を使うことの方が多くなっている。

TRIPS協定【Agreement on Trade-related Aspects of Intellectual Property Rights】知的 所有権の貿易関連の側面に関する協定

知的所有権の国際的保護体制に関する取り決め。世界貿易機関(WTO)加盟国は、一定の経過期間内に知的所有権保護制度を確立することを求められる。HIV/AIDSとの関連では、抗レトロウイルス薬(ARV)を始めとする必須医薬品(Essential drugs)に関わる知的所有権の保護をめくり、特許権者の権利と公衆衛生上の必要とのバランスをどうとるかが議論になった。2001年のドーハ閣僚会議において採択された「TRIPS協定と公衆衛生に関する閣僚宣言」によって、各国が公衆の健康を守るための措置とし、強制実施権を発動し、特許薬と同一の化学構造を持つジェネリック薬を製造できることが確認された。

UNAIDS【Joint United Nations Programme on HIV/AIDS】国連合同エイズ計画

HIV/AIDSに効果的に取り組むために国連機関の合同によって1994年につくられた。参加機関は以下の10機関。国連難民高等弁務官事務所(Office of the United Nations High Commissioner for Refugees: UNHCR)、国連児童基金(United Nations Children's Fund: UNICEF)、国連世界食糧計画(United Nations World Food Programme: WFP)、国連開発計画(United Nations Development Programme: UNDP)、国連人口基金(United Nations Population Fund: UNFPA)、国連薬物犯罪オフィス(United Nations Office on Drugs and Crime: UNODC)、国際労働機関(International Labour Organization: ILO)、国連教育科学文化機関(United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization: UNESCO)、世界保健機関(World Health Organization: WHO)、世界銀行(World Bank)。

VCT【Voluntary Counseling and Testing】自発的カウンセリング・検査

HIV/AIDSやHIV検査について十分な情報を得たうえで(プレ・カウンセリング)、自ら選択してHIV検査を受け、検査結果に基づいてポスト・カウンセリングを受けるまでの一連のプロセスを指す。VCTを提供する施設(VCTセンター)には、VCTの機能しかないスタンド・アローン型と、医療・ケアなどその他のサービスも提供できるクリニック・病院などとの一体型とがある。VCTは、その後の治療やケア・サポート、母子感染予防などの「入り口」(Entry Point)になるとともに、VCTというプロセスを通じて人々がHIV/AIDSについてリアリティを持って考えることができるようになるという点で、予防・啓発活動の「入り口」でもある。その点で、VCTは包括的なHIV/AIDS対策における一つの要の位置を占め

ることができる。

アドヒアランス【Adherence】

内服薬による治療においては、患者が薬を適切に服用しないと十分な効果があがらない。これについて、患者側が医療提供者による説明を十分把握し、自らの判断に基づいてどのような治療行動をとるかについての概念を「アドヒアランス」という。患者が自分の病気を受容・理解し、服薬などの点で自ら治療を積極的に実践することができ、また、医療提供者側が、患者が主体的に適切な治療行動に参画できるような形で治療プログラムを組むことができる場合、アドヒアランスは向上する。一方、患者側が医師等の指示にしたがって服薬等の治療行動をとっているかどうかについての概念を「コンプライアンス」という。これら二つの用語の間には、主体を医療者側と患者側のどちらに置くかというスタンスの違いがある。この二つの用語の差異および定義に関しては、例えば「医薬品情報21」のウェブサイト (<http://www.drugsinfo.jp/contents/qanda/a/qaa10.html>) が参考になる(アクセス日:2004年12月19日)。

ヴァルネラブル・グループ【Vulnerable group】

様々な要因により、一般人口と比較して高いHIV感染の可能性にさらされている特定の社会集団のことを指す。HIV感染拡大に関して、一般人口と比較して何らかの脆弱性を有する社会集団として定義することもできる。制度的・社会的な差別やスティグマは、HIVに感染した後の対処(HIV/AIDSに関する正確な情報へのアクセス、VCTサービスへのアクセス、治療やケア・サポートへのアクセス等)を困難にし、これらのグループに属する人々に二重の負担を強いて、脆弱性を強化する要因となる。ヴァルネラブル・グループとして主に挙げられるのは、女性(とくに若年女性)、難民、移民、男性と性行為をもつ男性(MSM)、セックスワーカー、注射薬物使用者(IDU)などである。また、近年は遺児や脆弱な立場におかれた子ども(Orphans and vulnerable children:OVC)もヴァルネラブル・グループのひとつとして位置づけられている。

ウイルス量【Viral load】

HIV感染者が血中にもっているウイルスの量。症状が進行するほど高くなり、CD4カウント同様、エイズ治療における重要な指標となる。

エイズ【Acquired Immunodeficiency Syndrome : AIDS】

HIV感染を原因として生じた免疫不全の状態、およびこの免疫不全を原因として、様々な日和見感染や、場合によっては悪性腫瘍等が合併した状態のことをいう。HIVに感染したものの、深刻な免疫不全に至っておらず、日和見感染なども併発していない状態については、エイズとは呼ばない。

エイズ(による)遺児〔AIDS orphans, children orphaned by AIDS〕

両親のいずれか、もしくは両方をエイズのために失った子どものこと。何歳までをこのように呼ぶかは定義によって異なる。遺児自身がHIVに感染しているとは限らない。HIV/AIDSを含むさまざまな要因により社会的支援を必要とする子どもを包括して、Orphans and vulnerable children (OVC) と呼ぶことも多い。

強制実施〔Compulsory license〕

特許権者の許諾を得ないで、国が特許権者以外の第三者に当該特許を実施する権利を強制的に付与することをいう。「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定」(TRIPS協定)のなかで条件が定められている。

国連エイズ特別総会〔United Nations General Assembly Special Session on HIV/AIDS : UNGASS〕

2001年6月25～27日の3日間にわたり、ニューヨークの国連本部で開催。この総会で、国家による政治的コミットメントの必要性をうたい、また、HIV/AIDSに関わる各種の国際目標を定めた「HIV/AIDSに関するコミットメント宣言」が採択され、各国におけるHIV/AIDS対策の取り組みの指針となった。当該宣言の仮訳は国連広報センターのウェブサイト (<http://www.unic.or.jp/new/pr01-0627.htm>) に掲載されている(アクセス日:2004年12月19日)。

在宅ケア〔Home-based care〕

ケア提供者がHIV感染者・エイズ患者の家庭を訪問し、体調の管理・把握や生活支援、心理的ケアなどを行うケアの方法。サブサハラ・アフリカにおいては、各種NGOや信仰を基礎とする団体(FBO)、HIV/AIDSと共に生きる人々(PLWHA)の相互扶助組織等が在宅ケアサービスを積極的に実施している。

ジェネリック薬〔Generic drugs〕

特許によって保護されている医薬品と化学的に同一で、特許権を設定している者(特許権者)とは別の者によって製造・販売され、一般に特許薬よりも価格が安い医薬品。一般には、保護されていた特許権が切れた後に特許権者とは別のメーカーによって製造・販売される医薬品のことをいう。途上国におけるHIV/AIDS治療の文脈では、(1)当該国において特許の申請が行われなかったなどの理由により特許が設定されていない、(2)当該国の特許法が医薬品の物質特許の設定を認めていない、などの理由により、特許権者でない者が当該国の特許法上合法的に、特許薬と同一の成分・効能を有する薬を製造・販売することができる場合がある。このようにして製造・販売される薬もジェネリック薬と呼ぶ。また、2001年の「ドーハ宣言」により、世界貿易機関(WTO)加盟国は公衆の健康を守るために強制実施権を発動して医薬品を製造する自由を保障されたが、強制実施権発動の手続きにより合法性を確保して製造された医薬品も、特許薬と同等の成分・効能を有するのであれば、ジェネリック薬と呼ぶ。

スティグマ〔Stigma〕

否定的な意味合いを持つ社会的認識、偏見。HIV/AIDSの場合は、性行為や薬物注射など社会的に禁忌と解釈される行動によってHIVに感染する事例が多くあること、また、エイズが死に至る病だという認識が人々のなかに強くあることから、HIV/AIDSおよび患者・感染者に対して強いスティグマを持つ傾向がある。

性感染症〔Sexually transmitted infections : STI〕

性行為を通じて感染する病気の総称。淋病、梅毒、クラミジア症など。これらの病気に冒された場合、粘膜に炎症が生じるなどの症状が出るため、HIVがこうした炎症部位を通じて侵入するため、HIV感染の可能性が高くなる。

セックスワーカー〔Sex worker〕

労働として、また現金収入を得るために性的サービスを提供する人。HIV/AIDSの文脈において、「売春婦」(prostitute)といった既成の表現ではなく「セックスワーク」「セックスワーカー」という表現が使われている理由は主に以下の二点である。第一に、「売春婦」といった既成の表現は、セックスワークに従事する女性に対する差別・スティグマ化の作用を強く持つ一方、「買う側」の存在やその抱える問題点を隠蔽する傾向があるため、とくにHIV/AIDSに関わる文脈においては適切でない。第二に、セックスワークは他の職業と同様の賃労働であり、セックスワーカーには労働者としての権利が保障されるべきであるが、制度的・社会的な差別・スティグマによって、これらの労働権・人権が適切に保障されず、それが要因となってHIV感染やその他の健康問題が生じている。そうである以上、HIV/AIDSの文脈においては、これらの力学を助長するような既成の表現ではなく、セックスワークを労働として、またセックスワーカーを労働者として認識する適切な表現を使用すべきであること。セックスワーカーは女性だけでなく、男性または女性を顧客とする男性のセックスワーカーや、トランスジェンダー・トランスセクシュアルのセックスワーカーなど多様であり、その就労の仕方も、先進国に広く見られるいわゆる「管理売春」型から、より自営的なニュアンスが強い、また一時的なものまで多様であることにも留意すべきである。

多剤混合薬〔Fixed dose combinations : FDC〕

ひとつのカプセルの中に2～3種類の薬剤を入れたもの。薬剤の管理・流通が容易になり、アドヒアランスを向上させることができる。

治療リテラシー、治療準備度 (Treatment literacy, treatment preparedness)

HIV/AIDSの治療、とくに抗レトロウイルス薬治療 (ART) は複雑であり、なおかつ長期間に渡る。このため、治療が長期間に渡って適切な効果を持つためには、HIV/AIDSと共に生きる人々 (PLWHA) が単に医療従事者の指示に従うという「コンプライアンス」的視点

のみでなく、PLWHAが自ら治療について把握・理解し、医療従事者の説明等を取捨選択しながら、自分にとって適切な治療行動をとっていくという「アドヒアランス」が不可欠である。また、長期間にわたってアドヒアランスを維持するためには、治療に関する高い動機付けがなければならない。「アドヒアランス」の前提となるのが、PLWHAがどれだけ治療について理解し、自分にとって適切な治療のあり方を見いだすことができるかという「治療リテラシー」の能力である。また、治療に関する動機付けについては、治療が長期間におよぶほど、一個人の力では維持できず、PLWHA同士の相互扶助グループや勉強会などの相互扶助活動や治療に関する啓発活動によりお互いの動機付けを高めあうことが不可欠となる。「治療リテラシー」や、こうしたPLWHA同士の活動など、長期間にわたって動機付けを維持するしくみがどの程度準備されているかどうかで、その社会におけるHIV/AIDS治療の効果が変わってくる。こうした、当該社会なりコミュニティがHIV/AIDS治療をどの程度確実なものとして行えるかについて評価する概念として「治療準備度」がある。

センチネル・サーベイランス【Sentinel surveillance】

感染症サーベイランスの方法の一つで特定のグループの感染動向を把握することによって、全体の感染動向を理解しようとするもの。HIV/AIDSとの関連では、妊産婦検診や性感染症クリニックの受診者のサンプルを「anonymous, unlinked」(匿名でなおかつ検体に対する本人情報をたち切ること)の条件のもとに検査し、データを得ることが行われている。

日和見感染症【Opportunistic infections】

健康であれば病気を起こさないような弱い病原体によって、免疫力が弱っている人がかかる感染症。エイズでみられる日和見感染症には、カンジダ症、クリプトコッカス症、サイトメガロウイルス症、単純性ヘルペスウイルス感染症、非定型抗酸菌症、ニューモシスチス・カリニ肺炎、トキソプラズマ脳症、コクシジオイデス症、ヒストプラズマ症、イソスポラ症、結核、サルモネラ菌血症などがある。

並行輸入【Parallel importing】

自国で特許が設定されている製品について、特許権者以外の第三者が他国から輸入すること。同じ製品(医薬品等)が自国より他国で安く売られている場合、並行輸入は安価な製品の調達方法として有力なものの一つである。

母子感染【Mother to child transmission】

HIVの母子感染の経路としては、(1)子宮内または胎盤感染 (2)産道または周産期感染 (3)母乳感染、がある。HIV陽性の妊産婦と新生児へ抗レトロウイルス薬(ARV)投与を行うことにより、母子感染のリスクを大幅に下げることができる(母子感染予防)。一方、妊産婦への一時的なARV投与を中心とする母子感染予防のみのプロジェクトは、母親がやがてエイズで死ぬことによりエイズによる遺児を生み出してしまうこと、母乳による感染を防げな

いことなどに関する批判も強い。そのため、母子感染予防を提供した母子について、その後継続的なHIV治療に結びつけていく「MTCT+」といったプログラムも実践されている。

薬剤耐性【Drug resistance】

抗レトロウイルス薬療法（ART）の過程で、ウイルスの変異により薬剤の治療効果がなくなることを、HIVが耐性を獲得したといい、この場合、ARTに用いる抗レトロウイルス薬（ARV）の種類を変更する必要がある。HIVは変異しやすいウイルスで、従って耐性も獲得しやすい。決められた通りの服薬を守れなかった場合に耐性ウイルスが出現しやすくなるため、ARTにおいてはアドヒアランスが特に重要である。日本など先進国における薬剤耐性とそれへの対応については、HIV感染症治療研究会のウェブサイト（<http://www.hivjp.org/>）に掲載されている「HIV感染症治療の手引き」が参考になる（アクセス日：2004年12月19日）。

臨床ステージ【Clinical stage】

世界保健機関（WHO）はHIV感染症を、症状の進行によって臨床ステージ1～4に分類している。WHOのガイドラインでは、HIV感染症の最も深刻なステージである臨床ステージ4に至った場合、CD4カウントにかかわらず抗レトロウイルス薬療法（ART）を開始することを推奨している。

ワクチン【Vaccine】

病原体に似たものを予め体内に入れることで、その病原体に対する抵抗力を導くもの。HIVワクチンの開発努力がなされているが、まだ臨床試験が一部で始まった段階で、実用化には至っていない。

主要参考URL

HIV感染症治療研究会 [<http://www.hivjp.org/>]

国境なき医師団「必須医薬品キャンペーン用語集」

[http://www.msf.or.jp/access/a_word.php]

中四国エイズセンター「よくわかるエイズ関連用語集 Ver.3」

[<http://www.aids-chushi.or.jp/c5/menu.htm>]

Journ-Aids, “HIV/AIDS Glossary.”

[<http://www.journ-aids.org/HIV-AIDS%20and%20Glossary.htm>]

UNAIDS, “Glossary of HIV-and AIDS-related Terms.”

[<http://www.unaids.org/Unaid/EN/Resources/Terminology/>]

資料2 主要な抗レトロウイルス薬

種別	日本語表記	英語表記	略語	米国での主要な製造業者
核酸系逆転写酵素阻害剤 (NRTI)	アバカビル	Abacavir	ABC	グラクソ・スミスクライン
	ジダノシン	Didanosine	ddl	ブリストル・マイヤーズ・スクイブ
	(未承認)*	Emtricitabine	FTC	ギリアド
	ラミブジン	Lamivudine	3 TC	グラクソ・スミスクライン
	スタブジン (サニルブジン)	Stavudine	d 4 T	ブリストル・マイヤーズ・スクイブ
	テノホビル**	Tenofovir	TDF	ギリアド
	ザルシタピン	Zalcitabine	ddC	ロシュ
	ジドブジン(アジドチミジン)	Zidovudine	ZDV (AZT)	グラクソ・スミスクライン
	非核酸系逆転写酵素阻害剤 (NNRTI)	デラビルジン	Delavirdine	DLV
エファビレンツ		Efavirenz	EFV	ブリストル・マイヤーズ・スクイブ
ネビラピン		Nevirapine	NVP	ベーリンガー・インゲルハイム
プロテアーゼ阻害剤 (PI)	アンブレナビル	Amprenavir	APV	グラクソ・スミスクライン
	アタザナビル	Atazanavir	ATV	ブリストル・マイヤーズ・スクイブ
	ホスアンブレナビル	Fosamprenavir		グラクソ・スミスクライン
	インジナビル	Indinavir	IDV	メルク
	ロピナビル・リトナビル配合剤	Lopinavir/Ritonavir	LPV/RTV	アボット
	ネルフィナビル	Nelfinavir	NFV	ファイザー
	リトナビル	Ritonavir	RTV	アボット
	サキナビル	Saquinavir	SQV	ロシュ
融合阻害剤 (Fusion Inhibitors)	(未承認)*	Enfuvirtide	T20	ロシュ

(注) * 2004年11月段階で未承認。

**核酸系逆転写酵素阻害剤のうち、テノホビル以外はヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤。テノホビルは新しく開発されたヌクレオチド系逆転写酵素阻害剤である。

(出所) Center for HIV Information, University of California San Francisco, "HIV InSite" (<http://hivinsite.ucsf.edu/InSite?page=ar-drugs>) およびHIV感染症治療研究会『HIV感染症「治療の手引き」』第8版 (http://www.hivjp.org/guidebook/hiv_8.pdf、2004年12月発行) より作成。